

「第3回 英語でニッポンを語ろう！コンテスト in 川越」結果報告

2018年7月25日「英語の通じる街」実行委員会



■実施概要：

日時：2018年7月8日（日）13時～16時

場所：ウェスタ川越 大ホール

後援：観光庁、埼玉県、川越市、川越商工会議所、小江戸川越観光協会、川越市教育委員会、朝日新聞西埼玉支局、読売新聞さいたま支局、産経新聞さいたま総局、毎日新聞さいたま支局、東京新聞さいたま支局、テレ玉

協力：東日本旅客鉄道(株)大宮支社、西武鉄道(株)、東武鉄道(株)、西武バス(株)、東武バスウエスト(株)、(株)まちづくり川越、東洋大学川越キャンパス、尚美学園大学、山村学園高等学校、イーグルバス(株)、(株)エスプリライン、埼玉縣信用金庫、三光物産(株)、(株)日本アポック

審査員：金子廣行氏（上智大学大学院博士課程修了・元大東文化大学講師）

Zane Ritchie 氏（城西大学現代政策学部准教授）

Annelise Marshall 氏（東京国際大学 Global Teaching Institute 語学専任講師）

大谷治子氏（株式会社エスプリライン専務取締役）

ご来賓：川越市長 川合善明氏

小江戸川越観光協会 会長 条原恒久氏

川越商工会議所 専務理事 竹澤穰治氏

■出場者：47 組が応募、映像審査を経て 19 組が本選へ。

埼玉県を中心に、東京都、群馬県、愛知県から出場。

小学生部門：4 組

- ・ 小学 2 年生から出場。川越市内の小学校のほか、埼玉県内近郊の市立小学校、さいたま市にある私立開智学園小学校からは団体で出場。

学生部門（中学生～高校生）：4 組

- ・ 中学校 1 年生から高校 3 年生まで出場。

一般部門（18 歳以上）：5 組

- ・ 大学生、会社員等

商業・サービス部門：4 組

- ・ 市内の鉄道会社の職員、銀行員、不動産会社の社員、英語の落語パフォーマー等

English Master 部門：2 組

- ・ 海外留学経験のある観光案内会社の社員、主婦等

■来場者：計 410 名（観覧者数 351 名 登壇関係者ほか数 59 名）

■協賛：92 社

■プログラム：

時間	内容
13：00 オープニング	・ MC によるショートトークと挨拶 ・ 来賓ごあいさつ 川越市長川合善明氏 ・ 「英語の通じる街」実行委員会 大谷登より挨拶 ・ 審査員ご紹介
13：15 学生部門発表	4 組（中学生～高校生）
13：34 一般部門発表	5 組（18 歳以上）
13：57 小学生部門発表	4 組
16：16 商業・サービス部門発表	4 組
16：35 English Master 部門発表	2 組
15：46 休憩	
15：05 アクティビティ ヒップファミリークラブ	国際交流の体験談と会場の皆さんと一緒にいうじゃんけんゲームのアクティビティ
15：18 川越市オリンピック大会室	2020 年東京大会の概要と取り組みについて
15：29 表彰式	表彰、審査委員長金子廣行氏によるコメント
15：54 エンディング	来賓・小江戸川越観光協会会長 条原恒久氏よりご感想 コンテスト実行委員長：谷島賢より挨拶
16：00 終了	記念撮影

■表彰

●最優秀賞：喜餅さん（愛知県半田市 商業・サービス部門） 賞金 10 万円



「RAKUGO the Magic（落語ザ・マジック）」

子どもの頃から魔法使いになりたかった喜餅さん。その夢が 2010 年に叶ったそうです！「落語」を通して魔法の技術を獲得し、それを披露してくれました。現在はアメリカで、日本の伝統芸能を、英語で「落語」を通して紹介しているそう。「落語はマジックなんです！」と語ります。

● 学生部門・部門賞：

栗原 りなさん（洗足学園中学校 1 年生 東京都渋谷区） 賞金 3 万円

「Amazing Japanese Traditional Crafts（素晴らしい日本の伝統工芸品）」

走ることが大好きで生活の一部となっている栗原さん。靴紐の結び方を変えることで走ることが楽しくなるそうです。組紐は編み物文化の代表で、千年以上もの間、装飾品など様々な使われ方をしてきました。それは現代にも引き継がれ、ブレスレットやストラップ、靴紐として生き続けていることをスライドとともに紹介してくれました。



● 一般部門・部門賞：

宮下 ひなのさん（埼玉女子短期大学 群馬県富岡市） 賞金 3 万円



「Japanese Kindness（日本人の親切心）」

日本人ってどんな人かを外国の方たちに聞いてみると「日本人はとても礼儀正しくて親切」と答えてくれます。日本人の親切心に触れられる場所は、エスカレーターやお手洗といった例を出しながら、日本人から感じられる親切心によって日本が世界で一番親切でおもてなしの国として認知してもらえることが目標、と語ってくれました。

● 商業・サービス部門優秀賞：

JR 川越駅 天野翔さん、池田康成さん（埼玉県川越市） 賞金 3 万円

「The Work of JR Kawagoe Staff（JR 川越駅の仕事）」

「駅員の仕事」というと、「列車を安全に運行すること」「切符の販売や確認」など様々。「指差確認」の実演を交えながら、日本の鉄道の安全性を紹介したり、日本と海外での交通事情の違いについても笑いを取りながら紹介くれました。



●想いが伝わったで賞（外国人ボランティアが投票に参加）：

加藤 緩風さん（埼玉県立岩槻高等学校 2 年生 埼玉県さいたま市 学生部門） 賞金 1 万円

「Instagrammable Japan（インスタ映えする日本）」



インスタ映えするとってもオシャレな写真を撮って楽しんでいる高校生。横浜、富士山、大宮の大湯祭のダルマ、喜多院の桜など、SNS を通して日本各地の場所、人、物を世界中の人たちに発信できます。ぜひ、現地に足を運び、景色を眺めて、売られている物を手にして、人と触れ合いながら「フォトジェニック」を楽しんでほしいそうです。

●個性があふれていたで賞：

島田 日菜さん（大妻嵐山高等学校 3 年生 埼玉県比企郡 学生部門） 賞金 1 万円

「Japan's National Butterfly “Omurasaki”（日本の国蝶「オオムラサキ）」

日本の国蝶の「オオムラサキ」は、1956 年に 75 円切手のデザインに採用され、その後、国蝶となりました。「オオムラサキ」が幼虫からさなぎになり、そして成虫になる様子を体でおもいきり表現し、「オオムラサキ」の優美な姿と生きる強さについて語ってくれました。



■川越市オリンピック室から 2020 年に向けて川越市の取り組み発表と

アクティビティはヒッポファミリークラブの皆さんによるじゃんけんゲーム！

オープニングは小江戸川越観光親善大使の阿里耶さんと Speak UP Radio のパーソナリティの MJ とアダムが登場！3 人のショートトークから始まり、コンテストの途中では、今回のコンテストのタイトル「英語で言いたいこと YEAH（言えー）!!!」のかけ声を会場の皆さんに呼びかけ、会場を盛り上げました。

出場者 19 組の発表が終わり、休憩後には民族衣装を身にまとったヒッポファミリークラブの皆さんが登壇し、国際交流の体験発表と会場を巻き込んだアクティビティ・じゃんけんゲームが行われました。その後、川越市オリンピック大会室から、2020 年東京大会の概要と川越市の取り組みについて分かち合われました。



観覧者の皆さんからは、「私も英語を話せるようになりたい」「学生のレベルの高さに驚きました」「川越の方たちの本気の気持ちが伝わってきました」といったお声を頂きました。

■アンケート：別紙参照

■メディア掲載

<事前> TV1 件、新聞 6 件、雑誌 1 件、WEB14 件、地域情報紙 3 件（計 25 件）

日にち	媒体名	媒体	部数等
4/3(火)	川越経済新聞	WEB	
4/5(木)	J:com チャンネル デイリーニュース	TV	
4/18(水)	朝日新聞埼玉版マリオン	新聞	約 52 万部
4/19(木)	埼玉新聞	新聞	約 12 万部
4/27(金)	ショッパー（川越中央、坂戸・鶴ヶ島）	地域情報誌	約 10 万部
5/9(水)	公募ガイド（6 月号）	雑誌	約 10 万部
5/28(月)	いこーよ、ことさが（イベント情報サイト）	WEB	
5/29(月)	EventBank（イベント情報サイト）より Yahoo! ロコ、朝日新聞デジタル、BIGLOBE 旅行、パナソニックおでかけ旅ガイド、日本旅行、ニコンスポトリサーチ、J:comZAQ おでかけガイド、大東建託進化する暮らし、ウォーカープラス、ロコナビへ掲載	WEB	
5/29(火)	毎日新聞 埼玉版	新聞	約 23 万部
6/1(金)	登竜門	WEB	
6/25(金)	広報川越 情報アラカルト	地域情報誌	約 16 万部
6/26(火)	朝日新聞 埼玉版(西部)	新聞	約 52 万部
6/28(木)	日刊工業新聞	新聞	約 3 万 9 千部
6/29(金)	川越専科	地域情報紙	
7/3 (火)	朝日新聞 埼玉版(東部)	新聞	約 52 万部

<開催後> TV1 件、新聞 1 件、WEB2 件、地域情報誌 1 件（計 5 件）

日にち	媒体名	媒体	部数等
7/10(火)	J:com チャンネル デイリーニュース	TV	
7/13(金)	カワゴエ・マスメディア（前編）	WEB	
7/14(土)	埼玉新聞（県北・県西）	新聞	
7/17(火)	カワゴエ・マスメディア（後編）	WEB	
8/10(金)	ショッパー（川越中央、坂戸・鶴ヶ島）	地域情報誌	約 10 万部

●募集

◆「英語でニッポンを語ろう！」

コンテスト in 川越」出場者募集

7月8日(水) 1時～4時、ウェスタ川越(川越駅)。「世界に伝えたい！日本の素晴らしさ・日本の魅力」をテーマに、英語で自由にスピーチするコンテスト。小学生以上対象。最優秀賞10万円、部門賞3万円、出場者全員に参加賞の授与あり。6月5日必着。応募資格、必要書類、審査条件など詳しくは「英語の通じる街」実行委(☎080・4165・7432)。

←2018年4月18日(水) 朝日新聞(埼玉マリオン)

↓2018年4月19日(木) 埼玉新聞

英語で日本の魅力 7月にコンテスト

川越市を国際観光都市のモデルにしようと、「英語の通じる街」実行委員会(会長・

谷島賢一、グールバス社長)は7月8日にウェスタ川越で「第3回 英語でニッポンを語ろう」コンテスト in 川越」を開催する。6月5日まで出場者を募集している。2020年東京五輪・パラリンピックに向け、市内における英語ボランティア活動を推進しようと開催する。

テーマは「世界に伝えたい日本の素晴らしさ・日本の魅力」で、日本の文化や歴史、自然、ホスピタリティなど題材は自由。グループでの参加も可能で、英語で表現するのであれば、スピーチや漫才、寸劇、プレゼンテーションなど形式も自由となっている。

部門は学生、一般、商業・サービスの3部門のほか、今回から小学生部門と、英語を職業にしている人などが対象の「English Master部門」を新設した。応募書類で予選審査を行い、コンテスト出場者20組程度を決定する。出場や当日観覧の申し込み問い合わせは、実行委員会(☎080・4165・7432、平日午前10時～午後5時)へ。

(坂本圭)

で開山式 小鹿野

百名山の一つである両神(標高1723m)の開山式が、小鹿野町両神の日向登山口で行われ、関係者などシーズン初登山の安全を祈った。秩父山系で最初の山で、本格的な登山シーズンに入った。

両神山は日帰りの登山が可能。登山客からの人気が高い。開山式は午前11時から登山口にある神社で祭典を実施後、地山岳会や県警山岳救助隊など関係者約20人が登山道に整備していた雨も上がる中、同の鈴木正行氏が大森(おおい)を左右に振って「おはらい」を祈り、登山の安全を祈っていた。(桜井和憲)

川越中央版

シ ョ ッ

←2018年4月27日(金)

ショッパー (川越中央・坂戸・鶴ヶ島)



きらり輝くひとまち 日本の素晴らしさ・魅力を英語で伝えよう！

7月8日に川越でコンテスト「英語の通じる街」実行委員会

「第3回英語でニッポンを語ろう」コンテスト in 川越」(谷島賢一、グールバス社長)が7月8日午後1時～4時、ウェスタ川越(川越駅西口)大ホールで開催されます。

「英語の通じる街」実行委員会主催。川越の英語観光ボランティア活動の活性化を図るため、一昨年から行われている「世界に伝えたい日本の素晴らしさ・日本の魅力」を英語で自由に語るコンテスト(写真)は昨年、学生、一般、商業・サービスの3部門に加え、今回から小学生部門、イングリッシュマスター部門を新設しました。

「前回、小学生の発表が素晴らしかったところから、小学生部門を別に設けました。コンテスト参加有志の方には、英語観光ボランティアとして川越まつりでも活躍していただきます。2020年に向けて、英語ボランティア活動を推進していきたい」と運営事務局の渡邊瑞穂さん。

発表形式はスピーチ、漫才、ショートコント、プレゼンテーション、寸劇など。最優秀賞には賞金を進呈、出場者全員に参加賞を授与します。応募は6月5日まで(必着)。予選審査後、20人程度を選出。当日の観覧者も募集です。観覧無料、予約制。詳細は事務局(☎080・4165・7432)平日午前10時～午後5時、専用ウェブページ(英語の通じる街「実行委員会」で検索)を。

↓2018年5月9日(水) 公募ガイド

応募先 〒897-0302鹿児島県南九州市知覧町郡17881 スピーチコンテスト実行委員会事務 heiwakaikan@samba.ocn.ne.jp
 問合せ ☎0993-83-2511(内5231) <http://www.chiran-tokkou.jp> 主催：鹿児島県南九州市

第3回 /	出演・参加	英語でニッポンを語ろう！コンテストin川越 出場者募集	10万円	42組	4分以内	2018 6/5
-------	-------	-----------------------------	------	-----	------	----------

英語で言いたいことYeah(言エー)!!!
 川越市で開催するスピーチコンテスト(7月8日)。同市では2020年の東京五輪に向けて、英語ボランティア活動を推進。海外観光客と市民の心が触れ合う街づくりを目指す。歴史、伝統、自然など日本の魅力を英語で伝えて。(畑)

応募要項 《詳細はWEB参照か請求》
 ●内容／「英語でニッポンを語ろう！コンテ

ストin川越」の出場者を募集。テーマは「世界に伝えたい！日本の素晴らしさ・日本の魅力」。①学生部門(中学生・高校生)、②一般部門(18歳以上の学生・一般)、③商業・サービス部門(販売サービスに従事する人)、④小学生部門(小学生)、⑤English Master部門(海外留学・海外生活の経験あり可。英語に自信がある人) ●規定／応募申込書をWEBから入

手するか、問合せ先に請求。郵送、WEBで応募。時間は4分以内。原稿、映像データなどを添付。
 ●資格／英語を母語としない人。グループ可。
 ※①②③は1年以上の海外滞在者、インタナショナルスクール通学経験者は不可 ●賞／最優秀賞1名(①②③から選出)＝10万円、ほか
 ●発表／7月8日

応募先 〒350-1123埼玉県川越市脇田本町15-21 KJ3ビル3F 「英語の通じる街」実行委員会 運営事務局 <http://eigonomachi.jp/contest2018/>
 問合せ ☎080-4165-7432(平日10時～17時) post@eigonomachi.jp 主催：「英語の通じる街」実行委員会

↓2018年5月29日(火) 毎日新聞(埼玉版)

英語で日本の良さ伝えよう

コンテスト参加者募集

2020年東京五輪・パラリンピックに向け、英語で日本の素晴らしさをアピールできる人材を増やそうと、川越市のウェスタ川越で7月8日、「第3回 英語でニッポンを語ろう！コンテスト in 川越」が開かれる。主催する「英語の通じる街」実行委員会は参加者を募集している。6月5日まで。

コンテストのテーマは「世界に伝えたい！日本の素晴らしさ・日本の魅力」で、日本の文化や歴史、アニメ、絆など題材は自由。発表形式もスピーチ、漫才、寸劇、プレゼンテーションなど自由。制限時間は4分。書類審査で出場者約20人を決定する。

募集部門は、学生部門(中学生・高校生)▽一般部門▽商業・サービス部門▽小学生部門▽English Master部門(英語に自信がある人)。最優秀賞は賞金10万円、各部門賞には3万円を贈呈する。

申し込み・問い合わせは同実行委(080・4165・7432)、平日10～17時に受け付け。【山寺香】

形式自由 川越で来月5日まで

↓2018年6月29日(金) 川越専科

英語で日本の、そして川越の魅力を語るコンテスト！



●問い合わせ先
 英語の通じる街実行委員会
<https://eigonomachi.jp/>
 ☎080-4165-7432



来る7月8日(日)に、「第3回 英語でニッポンを語ろう！コンテスト in 川越」が開催されます。このコンテストは、英語自慢の参加者たちが5部門に分かれて、日本の素晴らしさ、魅力をプレゼンテーションします。観覧ご希望の方は、下記ホームページよりご予約ください。

◀スマホからも予約できます！

↓2018年6月26日(火) 朝日新聞

英語が通じる街へ 川越でコンテスト

来月8日

「英語で言いたいことYeah!!! (言エー)!!」を合言葉に川越市で7月8日、「第3回英語でニッポンを語ろう！コンテスト in 川越」が開かれる。2020年の東京五輪・パラリンピックに向け、外国人と心がふれあう観光都市のモデルにしようとの狙いだ。川越市は東京五輪のゴルフ競技の会場。外国人の来訪が増え、外国人観光客をもてなす市民英語ボランティアの需要も増えることが見込まれる。このため市内の経営者有志でつくる「英語の通じる街」実行委員会(谷島賢会長)が、「英語の通じる街・川越」を目指し、世界に発信しようという狙いでコンテストを企画してきた。

学生(中学生)、一般、商業・サービスなどの部門があり①英語を母国語としない②海外に1年以上滞在していない——などの参加条件がある。英語であればスピーチや漫才、寸劇、コント、プレゼンテーションなど発表形式は自由だ。

2016年の第1回大会は32組が応募し、映像審査を経た16組が本選に出場した。昨年の第2回大会は42組が応募し、21組が本選出

昨年のコンテストで発表する川越女子高チーム「川越市のウェスタ川越」「英語の通じる街」実行委提供

英語観光ボランティア育成

埼玉・川越市が
来月コンテスト

【川越】埼玉県川越市の企業や観光協会などで組織する「英語の通じる街」実行委員会は、7月8日に「英語でニッポンを語ろう!コンテストin川越」を開催。外国人観光客の増加に加え、2年後の東京五輪で川越がゴルフ競技会場となることもあり、英語ボランティアを育成する。

1次選考を勝ち抜いた19組が4分以内でスピーチやプレゼンテーションのほか、落語、寸劇、歌などさまざまな形で英語の腕前を競う。小学生部門も設けられ、最年少は7歳。最優秀賞には賞金10万円が授与される。

また、参加者には今後、「川越まつり」などで英語観光ボランティアとして活動してもらう予定だ。コンテスト会場はウェスタ川越、時間は13～16時。問い合わせは同委員会運営事務局(080・4165・7432)へ。

↓2018年8月10日(金) ショッパー(川越中央、坂戸・鶴ヶ島)

英語で日本の魅力を発表
川越でコンテスト

最優秀賞に英語落語家・喜餅さん



「英語の通じる街」実行委員会主催「第3回英語でニッポンを語ろう!コンテストin川越」(谷島賢実行委員長)が7月8日、ウェスタ川越で開催されました。

今年は学生、一般、商業・サービス部門のほか

新設の小学生、イングリッシュマスタート部門合わせて19組が参加。それぞれの個性を生かしたテーマで、英語で日本の魅力を発表しました。その中で最優秀賞に輝いたのは、英語落語家として活動する愛知県在住の喜餅さん。「30歳から本や映画、音楽を通じて英語の勉強を始めました。今後は人情話の英語落語にも挑戦したいですね」と笑顔の喜餅さん(写真)。

谷島会長は「今年は大学との連携により学生部門が充実しました。川越の国際観光都市化、そしてオリンピックに向けて質の高い英語ボランティアを育成するきっかけになれば」と話しています。問い合わせは企画・運営事務局(電080・4165・7432)へ。